【別紙様式２】

令和元年度茨城県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表（全日制）

目指す学校像	歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で，文武両道の精神を継承し，豊かな教養と英知を備え，地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
伝統校として「文武両道」の精神を継承しつつ生徒の希望進路の実現に向けて継続的・組織的指導を実践することにより，平成30年度卒業生は現役のみで国公立大学に120名が合格した。また浪人生を含めると京都大・東工大をはじめ，本校が目標とする難関国立12大学に9名の合格者を出すことができた。 一方，射撃部が全国大会，陸上競技部，ソフトテニス部，吹奏学部が関東大会出場を果たした。 本校二大プロジェクトである「R プログラム」「筑波大学研究委員会」に加えて，文科省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）には２期目も指定されている。理数系教育を充実させて自ら課題を設定し探究していく力を伸ばしていく活動も軌道に乗ってきており，2 期目は「問う力」を全教科で培うことを中心課題としていく。 教員の側としては，授業研究・授業公開等を活発化させ，授業力の向上と主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	個に応じた指導の充実を図り，「確かな学力」を育む。	(1) 生徒が自ら課題を見いだし，主体的に学び続け，問題解決できる能力を育成する。 (2) 学習意欲の向上につながる指導の工夫とともに，「授業力の向上」に努める。 (3) 授業，土曜講座，課外，自学自習を有機的に結びつけ，自主的，主体的な学習習慣の確立を図るとともに，家庭学習の定着に努める。 (4) 授業研究・授業公開等を活発化させ，主体的・対話的で深い学びの実現に努める。	A
	キャリア教育の充実を図り，生徒一人一人の進路希望の実現に努める。	(1)Rプログラムに基づく系統的・組織的なキャリア教育により，将来の目標をより明確にし，学習意欲の向上に繋げる。 (2)丁寧な個別面談を行い，生徒一人一人の「進路設計とその課題」を明確にし，最後まで諦めずにチャレンジし続ける心を養う。 (3)学年間・教員間の連携を深め，広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。 (4) 「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」事業を通して，生徒の能力と適性に応じた希望進路の選択の幅を拡げる。 数値目標：東大・京大及び国公立大医学部医学科複数人合格，筑波大レベル以上の難関大35人以上合格。	B
	豊かな心を育む教育を推進する。	(1)規範意識や道徳心の育成等による豊かな心の育成に努めるとともに，「いじめ」を絶対に許さないという意識の醸成に努める。 (2)教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し，教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3)生徒の心情の理解を深めるとともに問題行動の早期発見・早期解決に努める。	A
	特別活動及び学校行事の充実に努める。	(1)文武両面において，前向きに取り組める生徒を育成する。 (2)ホームルーム活動，部活動及び生徒会活動を充実させることで，生徒の主体性を育成する。	A
	グローバルに活躍できる人材の育成に努める。	(1)「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」事業を通して，将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図る。 (2)国際交流事業を推進し，異文化を体験することによって，グローバルな視野を広げる。 (3) 英語によるディベートやプレゼンの推進，英語検定試験の受験の促進を図る。	A

【教科関係】

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="3">評価</th><th>次年度（学期）への主な課題</th></tr>
<tr><td rowspan="9">教科</td><td rowspan="9">国語</td><td rowspan="3">1年
現代文では漢字力と語彙力を，古典では文法・句法を中心に，基礎的力を確立させる。</td><td>計画的に漢字と古文単語の小テストを実施し，大学受験にも対応できる語彙力をつけさせる。</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="9">A</td><td rowspan="3">古典を３単位から２単位に変更した事の是非は検証が必要。</td></tr>
<tr><td>現代文の授業において，論理的に文章を読解する姿勢を育てる。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>文法と句法を段階的に学ばせ，古典に対する基礎的力を育成する。</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2年
現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成，進展させる。</td><td>各分野のテキストに年間を通して取り組み，基礎から応用へのステップアップを図る。</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3">問題演習の効果的実践</td></tr>
<tr><td>古文単語小テストを定期的に実施し，古語力を高める。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>古典分野においては，大学入試を意識した課題を与えることで，徐々に大学受験に対応できる学力を身につけさせる。</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3年
現代文，古文，漢文の受験に対応した学力を完成させる。</td><td>受験を意識した授業の実践を心がける。</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>小論文や評論に対応した，幅広い知識を身につけさせる。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>知識問題についての小テストを定期的に実施し，入試に対応する実践力を高める。</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="9">教科</td><td rowspan="9">地理歴史</td><td rowspan="6">授業中心主義を徹底し，学力の向上を図る。</td><td>シラバスに基づき，担当者間の連携を図りながら，計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。</td><td>B</td><td>B</td><td rowspan="6">A</td><td rowspan="6"></td></tr>
<tr><td>授業内容を精選し，基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに，発展的な内容を扱う授業展開を行う。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>他教科とのバランスを取りながら，適切な内容・分量の課題に取り組ませ，必要に応じて小テストを実施して，授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて，学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り，結果を生徒へフィードバックする。</td><td>B</td><td>B</td></tr>
<tr><td>教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い，指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>資料集など副教材の使用法を工夫し，生徒の興味・関心を喚起し，理解の進化に努める。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="3">興味・関心が持てる授業に努める。
センター試験で高得点を達成するとともに，難関大学に合格できる学力をつける。</td><td>板書事項，説明内容・方法等について，教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。</td><td>A</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>授業公開や教科会等を通じて，相互の指導方法について情報交換を行う。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し，学習指導の改善を図る。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
</table>

教科	公民	授業中心主義を徹底し，学力の向上を図る。	シラバスに基づき，担当者間の連携を図りながら，計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。	A	A	A	
			授業内容を精選し，基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに，発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A	A		
			他教科とのバランスを取りながら，適切な内容・分量の課題に取り組ませ，必要に応じて小テストを実施して，授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	B	B		
			定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて，学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り，結果を生徒へフィードバックする。	A	A		
			教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い，指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。	B	B		
			資料集など副教材の使用法を工夫し，生徒の興味・関心を喚起し，理解の進化に努める。	A	A		
		興味・関心が持てる授業に努める。 センター試験で高得点を達成するとともに，難関大学に合格できる学力をつける。	板書事項，説明内容・方法等について，教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。	A	A	A	
			授業公開や教科会等を通じて，相互の指導方法について情報交換を行う。	B	B		
			過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し，学習指導の改善を図る。	A	A		
教科	数学	1年　様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固める。	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図る。	B	B	A	
			授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。	A			
			定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	B			
		2年　科目の重要性を意識させ，きめ細かい指導の下，授業内容を確実に定着させる。	学習に取り組みやすく，理解を深められるように授業展開や進度の工夫をする。	A	A		
			年間を通じて，精選した課題を与え，生徒の取り組みを徹底させる。	A			
			授業進度に合わせ定期的に章末テストを実施し，基礎学力の定着と向上を図る。	B			
		3年　生徒の進路実現に向け，大学入試に対応した学力を完成させる。	大学入試を意識した授業の実践に心掛ける。	A	A		
			各テストを通して，大学入試に向けた計画的な学習を支援していく。	A			
			各分野の問題演習を行うことにより,大学入試に対応できる能力を養う。	B			

教科	理科	授業内容を深化させ，各生徒が希望進路を実現できる基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ，担当者間のコミュニケーションを図り計画的な指導を行う。	A	A	A	学び合いの機会を活用するなど，個々の生徒の資質・能力を引き出す指導法の開発。
			生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや，小テストを通して，学習習慣の確立を図る。	A			
			必要に応じ，各科目の担当者が個別の面談・指導を行い，学力の向上を図る。	B			
		自然や自然現象に対する興味・関心を高め，知識の活用能力を高める授業展開に努める。	観察・実験をバランスよく実施し，実物に触れることにより，興味・関心を喚起し，基礎的概念理解の深化を図る。	B	B		観察・実験をより充実させる。 ICT をより活用した授業開発を行う。
			ＳＳＨ事業と連携し，日常現象と科学との関連を取り上げることにより，科学への興味・関心を高め，知識の活用を促す。	A			
			ＩＣＴを活用したシミュレーションや視聴覚教材などを用いて，授業への興味・関心を高め，より深い理解を促す。	B			
教科	保健体育	各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。	A	B	B	・熱中症対策を徹底する。 ・安全管理を徹底する。
			各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ，解決できる能力を身につけさせる。	B			
			各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ，コミュニケーション能力を育てる。	B			
			熱中症対策，怪我や安全管理に留意して，授業を行う。	A			
		健康に対する意識・実践力を育む。	健康に対する知識や実践力を身につけさせ，明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。	B	B		・課題解決力の育成を図る。
			社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について，課題の解決に役立つ基本的な知識を理解する。	A			
教科	芸術	芸術への理解	芸術の歴史を学び、表現する喜びを味わう。	B	A	A	学び合いの機会を多く設け，対話的で深い学びができるように授業展開を行う。
			表現方法の会得と感性を磨く。	A			
			芸術を通して、自己の伸長を図る。	A			
教科	外国語	1年　英語に対する意欲及び興味・関心を高め，「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週単語小テストを実施し，基本的な語彙を身につけさせる。	A	B		思考力・判断力・表現力を養うべく、授業内容を工夫する
			基本的文法事項を習得させ，英文を読む力と書く力を培う。	B			
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ，英語を聞く力を養う。	A			
			ALTとのティームティーチングを通して，話す力やコミュニケーション能力を育てる。	B			
			外部英語検定受験を奨励し、CEFR　B1 以上の力を身に付ける。	B			
			ディベート活動を通して、思考力と表現力を身につけさせる。	B			

		2年　基礎力の増強および応用力育成･向上に努め，生徒をより高い目標へと鼓舞する魅力的なわかる授業を展開する。	小テストを継続し，基本的な語彙を定着させる。	A	A	A	リスニングと文法の指導に力を入れる
			基本文法事項に習熟させ，英文を読む力と書く力を高める。	B			
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ，英語を聞く力を養う。	B			
			ALTとのティームティーチングを通して，話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A			
			英検受験を奨励し，2級および準1級の合格を目指す。	A			
			ディベート活動を実施し，英語の運用能力と思考力を身につけさせる。	A			
		3年　生徒の希望進路の実現に向け，受験に対応した学力を完成させる。	平常の授業において，受験に対応した総合的な学力を高めさせる。	A	A		指導法の研究をさらに極める
			各テストを通して，受験に向けた計画的な学習を支援していく。	A			
			生徒の状況に応じた課外授業及び個別指導を実施する。	A			
			授業･指導法の研究に努め，平常授業の充実を図る。	B			
教科	家庭	家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	実生活に即した具体例の提示や実践活動を通して，家庭のあり方や家族関係についての基礎基本を習得する。	A	A	A	･実生活に即した課題を見出し，解決するための方法を考えさせる。 ･問う力の育成をするための方法を考える。
		家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する。	生活の中心から課題を発見し，解決するための事例研究を行い，学びを深める。	B	B		
			様々な討論法により自己表現力の向上と，自己理解を通しての課題解決を図る。	A			
		生活の充実向上を図る力と実践的な態度を育成する。	具体的な事例や演習の充実を図り，生徒が主体的に取り組む態度の育成を図る。	A	A		
			実生活に即した実践的・体験的学習を通して，一人で生活する能力を習得する。	A			
教科	情報	情報や情報社会に関心を持ち，身のまわりの問題を解決する。	自ら進んで情報及び情報技術を活用し，社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	A	A	A	・知識・技能の評価を工夫する。 ・定期考査を実施する。
		情報や情報社会における身のまわりの問題を解決する。	情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて，思考を深め，適切に判断し表現している。	B	B		
		情報及び情報技術を活用する。	基礎的・基本的な技能を身に付け，目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	A	A		
			基礎的・基本的な知識を身に付け，社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。	A			

【校務分掌関係】

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度（学期）への主な課題
教務	円滑な教育活動の推進	観点別評価の実施を行う	B	A	A	年度当初に再確認
		各部・各学年との連絡調整機能を強化し，教育活動の円滑化を図り教育目標の達成に努める。	A			
		授業時間確保のため，時間割の円滑な運営に努める。	A			
	円滑な教育活動の推進	生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。	A	A		新学習指導要領での再編成
		SSHの研究成果を生かす教育課程の編成を行う。	A			
		いばらき教育月間に学校公開を行い，地域に公開する。	A			
	地域，保護者との連携の強化	ホームページをさらに充実さすことにより，さらに学校教育活動の公開に努める。	A	A		
		小中学校等の訪問や，学校説明会により小中学校との連携を深める。	A			
		生徒，保護者へのアンケートを実施し，教育活動に生かす。	A			
生徒指導	基本的生活習慣を確立させる。	制服を正しく着用させる。定期的な服装指導を行う。（年間３回） 登校指導時による挨拶の励行。	A	A	A	登下校時の自転車の安全な乗り方とマナーについて指導する。 挨拶の励行。
	教育相談体制を確立する。	カウンセリング事業を継続し，専門家を積極的・効果的に活用する。	A			
	安全教育を充実させる。	登校指導による交通安全指導を実施する。交通安全講話により意識を高める。 原付バイク登校生徒対象の原付バイク実技講習会を実施する。	B			
進路指導	生徒の主体的な進路選択の支援を行う。	総合学習の時間や大学・企業訪問，先輩の語る話を聴く会，大学研究会などを通して，3年間を見通した計画的な進路指導を行う。	B	A	A	様々な環境の変化に対応すべく、行事などの精選について、より一層の検討を進める。
		進路講演会や学年集会などを通して，生徒の進路意識を高め，進路実現のために何をなすべきかを考えさせる。	A			
		生徒面談や保護者面談を通して，生徒一人ひとりの希望や適性を踏まえた生徒に寄り添った進路相談を行う。	A			
		進路関連資料の精選と提示の工夫に努め，生徒にとってより利用価値の高い進路指導室にする。	A			
	生徒の希望進路実現のための支援をする。	生徒が第一志望校に合格できるよう，授業の質をさらに高めるとともに，教科での研修を実施して，教科指導力向上に努める。	B	A		
		より適切な進路指導ができるよう模試分析会や進路検討会，出願検討会を適宜実施するとともに，進路指導部・学年・教科間のコミュニケーションの充実に努める。	A			

		添削指導や特別講座（課外）など，難関大学合格を目指す指導を組織的に行うとともに，難関大学入試の指導についての教員の研修を支援する。	A			
		上位層だけでなく下位層の底上げを図る取り組みを実施する。さらに，手薄となる中位層への指導を学年中心に検討し，手立てを講じる。	A			
特別活動	部活動と学業が両立できるようにする。	クラス担任と部活動顧問間で問題のある生徒の情報を共有し，両面から指導する体制づくりを行う。	B	A	A	・生徒情報の共有化 ・部活動の活性化 ・学校行事のさらなる充実
		生徒達の状況を理解し，各部活動の効率化・活性化を図るよう，部活動顧問に働きかける。	A			
		各学年，進路指導部，各部顧問との連携を強化し，学校行事と部活動が円滑に連携できるように努める。	A			
	生徒会活動をより活性化させる。	生徒会役員と定期的に話し合いを持ち，安全管理に留意し，学校行事の内容をより良いものにする。	A	A		
		学校行事を通して，色々な生徒達に達成感を味わわせ，生徒会活動への参加意欲を高める。	A			
保健	生徒の心身の健康	学校環境の安全に留意し，点検などを行う。	A	A	A	・中等部創設に伴う、諸問題への対処。事前防止のための方策。
		保健室の効果的な運用に努める。	A			
		担任・学年・生徒指導部などと協力し，生徒の心のケアの充実を図る。	A			
		性教育講座を通して健全な性への認識を持たせる。	A			
	防災意識を高める	避難訓練をとおして自分の身は自分で守るという意識を持たせる。	A	A		
		竜巻など火災や震災以外の災害にも対応できるようにする。	B			
		防火管理体制を充実させ，防災避難訓練を実施し，非常時に備える。	A			
	学習環境の整備	清掃分担を明確にし，清掃の徹底を図る。	A	A		
		空調設備の適切な管理運営と快適な学習環境作りに努める	A			
		トイレ清掃などを徹底し、衛生的な学習環境を整えるように努める。	B			

渉外	ＰＴＡ活動の活性化及び学校と家庭の連携強化を図る。	ＰＴＡ総会や支部総会への参加率を高めるよう努める。	B	A	A	ＰＴＡ総会・支部総会への参加者を増やすため，日程や内容を工夫する。
		ＰＴＡ役員会や生徒指導委員会・ＰＴＡ便り編集委員会などの委員会活動を通じて，保護者との連携強化に努める。	A			
		保護者向けの広報活動を積極的に行うとともに文化祭のＰＴＡ企画への参加率を高めるよう努める。	A			
図書	図書館の円滑な運営	担当職員間で適切な業務分担を行い，連絡を密にするとともに，授業や課題研究などでの図書館利用の促進に努める。	A	B	A	適切な業務分担の見直し。
		昼休み・放課後の当番制の徹底。	B			
	蔵書の充実と利用の促進	展示レイアウトや図書選びのアドバイスにより利便性の向上を図る。	A	A		
		学年や教科の推薦図書および小論文関係の図書を充実するとともに，生徒の購入希望図書にも留意することで利用の促進を図る。	A			
	図書委員会活動の充実	生徒図書委員研修会への参加による図書委員の資質向上。	A	A		自発的な委員会活動のものを目指す。
		日常の係り活動の活発化（カウンター当番・図書館便りの編集・図書館環境の整備など）。	A			
	各種コンクールへの参加	読書感想文・感想画などの募集および選考（教科・部動活との連携）。	B	B		
	視聴覚機材の円滑な活用	学校行事などで放送機器の円滑な運用に努める。	A	A		
ＳＳＨ	Ⅰ「主体性」の育成 自ら思考・判断し「問い」を発見し，その解決に向け目的・目標を明確にし，計画をたてて探究するとともに，振り返りを行って改善に活かす能力や態度。	「問う力」を共通指針とした各教科での，資質・能力育成プログラムの開発。全ての教科において「問う力」を育み，授業及び探究の質を高め「たくましい科学系人材」の育成を図る。	A	A	A	生徒のみならず教員間でも「問う力」というキーワードが浸透した。また１年生の「白幡ＳＳ情報」の開発が順調に進んだ。しかし一方で，評価手法の開発，探究ロードマップの作成など，進捗が不十分な事業が散見される。
		２年生からの探究活動の基盤となる，１年生における資質・能力の育成。１年生が取り組む「白幡ＳＳ情報」（２単位）と「白幡論理基礎」（１単位）を通じて，探究活動の基盤となる資質・能力を育成し，２学年からの探究活動の質の向上を図る。	A			
	Ⅱ「創造性」の育成 多角的，多面的な見方・考え方のもとで様々な知識や技能を積極的に活用しミスやトラブルを恐れ	将来のイノベーションを担う人材を育成する，ＳＳクラスにおけるカリキュラム設置型課題研究プログラム「白幡理数探究」の開発。ロードマップや指導者マニュアルとして整備し，課題研究の質の向上及び校内外への普及を図る。	B	A		

	ずに，新たな「問い」を創り出す能力や態度。	「白幡総合探究」の開発。ＳＳクラス以外の２年生全員が行う探究活動で，生徒が様々な学習活動で得た知識や技能を活用し結び付け，より深い学びにつながる取組とする。	A			
	Ⅲ「国際性」の育成 多様性を認め，他者と協働することの有効性を理解し，言語や文化の差異を乗り越えて他者とともに「問い」を深められる能力や態度。	「資質･能力」の育成に有効なパフォーマンス評価手法の開発。 「問う力」や「たくましさ」を評価可能な資質･能力に分解し，ルーブリックやチェックリスト等の評価ツールを構築し，各教科におけるパフォーマンス評価等へも展開する。	B	B		
		教師の教科指導力の向上を目指した，効果的な校内研修の開発。 各教員が教科における「知識」や「学び」についての見識を深められる校内研修を開発する。	B			
情報部	ネットワークとハードウェアとアカウントの管理	校内のコンピュータとその関連機器および視聴覚機器を管理して，校務に支障が出ないように運用し，不具合がある場合に即時対応する。	A	A	A	・統合型支援システムの運用に向けて，準備していく。また，先生方へ周知徹底する。 ・ICT 教育の導入に向けて，機器の整備をしていく。
	県提出文書の作成	県に提出する文書を正確に作成し，提出する。	A	A	A	
	成績・要録・調査書の管理	成績・要録・調査書のファイルを管理運営し，円滑に処理が行えるようにする。	B	B	B	
	緊急情報メールおよびホームページの管理	緊急情報メールとホームページを有効に運用する。情報倫理に配慮して適切に管理する。	A	A	A	

【各学年】

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度（学期）への主な課題
第１学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行，清掃の徹底，容儀指導の徹底，時間厳守，期限厳守等の凡事徹底を図るべく，学年全体として共通認識を持ち，常に生徒状況を確認しながらきめ細かな指導に取り組む。	A	A	A	・手帳の活用を通した学習，生活習慣における PDCA サイクルの徹底 ・思考力・判断力・表現力の向上を目指した教科横断的かつ3年間の一貫した教育の実現
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	初期指導の充実を図り，授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう，授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	A	B		
		生徒が授業内容をしっかり定着できるよう，各教科で連携して課題の量を調整するとともに，生徒の課題への取り組みおよび定着が徹底されるように指導する。	B			
		手帳を活用しながら，自主的に計画を立て行動する力を身につけさせる。	B			
	進路指導の充実	LHR および道徳の授業を中心として，進路意識が高められるように年間計画を立案し，将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに，2 年次の文理コース選択に対して適切な指導を行う。	A	A		
		進路指導部と連携し，適切な時期に適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。	B			
		進路指導部，SSH 委員会，国際交流委員会と連携し，生徒の進路目標設定に意義のある行事を企画・実施する。	A			
	心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに，健康的な学校生活が送れるよう，保健部や保護者と連携しながら，生徒個々の問題の早期発見に努め，適切な指導を行う。	A	A		
第２学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行，清掃の徹底，容儀指導の徹底，時間厳守，期限厳守等の凡事徹底を図るべく，学年全体として共通認識を持ち，常に生徒状況を確認しながらきめ細かな指導に取り組む。	A	A	A	・最終学年の意識を自覚させ，早い段階から大学受験に備える生活習慣，学習習慣への切り替えを徹底させる ・新入試制度の変化に備えて，的確に情報を収集するとともに，生徒・保護者に対して安心して大学受験に臨めるよう情報の提供および指導を徹底する
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	初期指導の充実を図り，授業を中心とした予習復習のサイクルの確立と家庭学習時間の確保ができるよう，授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	A	A		
		生徒が授業内容をしっかり定着できるよう，各教科で連携して課題の量を調整するとともに，生徒の課題への取り組みおよび定着が徹底されるように指導する。	B			
		スタディレコードまたは進路の手引き（Rプログラム）を活用しながら，自主的に計画を立て行動する力を身につけさせる。	A			
		文系理系を問わずすべてのコースにおいて進路・学校行事に合わせた探究活動に取り組ませる。	A			
	進路指導の充実	LHRや進路行事などを通じて自分の進路希望を具体化させ，大学の学部・学科研究等を通じて進路意識を高める。	A	A		

		進路指導部と連携し，適切な時期に適切な進路情報を生徒･保護者に提供する。	A			
		進路指導部，SSH 委員会，国際交流委員会と連携し，生徒の進路目標設定に意義のある行事を企画･実施しながら，将来グローバルに活躍する人材育成に努める。	A			
	心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに，健康的な学校生活が送れるよう，保健部や保護者と連携しながら，生徒個々の問題の早期発見に努め，適切な指導を行う。	A	A		
第３学年	学力の向上	２年次までの取り組みを継承し，予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら，さらに発展的学習に自主的に取り組む姿勢を養う。	B	A	A	入試問題における出題傾向・内容の変化を分析し，生徒が授業を中心とした学習活動で対応できる力をさらに伸張させることのできる授業展開を研究すること。
		各教科で，年度当初から入試を意識した指導を行い，適切な時期に，適切な課題，適切な指示を与えるように努め，学年教科担当者が相互に連携をとりながら，学習意欲の向上を図る。	A			
		定期考査・模擬試験の結果分析，大学入試問題の出題傾向の分析結果を授業に反映させ，授業内容の充実を図るとともに，受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。	A			
	基本的生活習慣の確立	最上級生として後輩の模範となるように規律ある生活に努め，学校行事や生活面・部活動面において中心となって取り組むように指導する。	A	A		後期から増え始める，朝のＳＨＲに遅れて登校する生徒の指導。
		生徒指導部と連携しながら，きちんとした服装・頭髪，時間の厳守，挨拶の励行などについて，集会やＬＨＲで継続的に指導する。	B			
	進路指導の充実	生徒の学習成績や適切な進路情報を，学年団で共有し，生徒や保護者に有効に提供できるようにする。	A	A		面談等を通し生徒の状況をより深く把握し，氾濫する入試情報の中から適切な情報を取捨選択し指導すること。
		ＬＨＲ，学年集会，講演会等を通して，入試や志望校の研究に努め，目標に向かって邁進する環境・雰囲気を醸成する。	A			
		生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし，必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら，適切な進路指導ができる態勢をつくる。	A			
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し，生徒の問題の早期発見，早期指導に努め，保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	A	A		それぞれの生徒に複数の教員が面談等の目を通して現状把握を図れる体制つくり。